

新北海道スタイル推進協議会 設立総会 議事録

日 時：令和2年6月26日（金）16:30～17:20

場 所：北海道庁本庁舎 TV会議室

出席者：資料「出席者名簿」のとおり

議 題：次第のとおり

1. 挨拶（鈴木北海道知事）

北海道知事の鈴木でございます。本日は大変、皆様お忙しいところ、急なお声かけにもかかわらず、ご参加をいただきまして、本当にありがとうございます。新型コロナウイルス、この対応について、皆様には、お力添えをいただいておりますこと、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。先月から緊急事態宣言を解除いたしまして、本道においては、札幌との不要不急の往来の自粛ですとか、イベントの開催制限など段階的に、これまで緩和を進めてきたところでございます。一方で、新型コロナウイルスが当面、ゼロになる、なくなっていくというわけではない、そういう状況の中で、最近の状況でございますが、これは北海道ではないですけれども、東京都では、今日も50名以上感染確認されているかと思うのですが、夜の街、そういったものに加えまして、オフィスで集団感染が確認をされているという報道もございます。また、本日もそうだけれども札幌市、そして小樽市では昼カラオケ、この関連で集団感染が発生をしているという状況がございまして、この北海道内でも、連日感染が確認されているという状況でございます。

このような状況の中で、感染リスク、これをしっかり低減をしながら、社会経済活動の両立をしていくということが極めて重要でありまして、道民の皆様、そして事業者の皆様には、新しい行動様式、こちらを徹底していただく新北海道スタイル、こちらを進めていくことがどうしても必要不可欠であるというところでございます。このため道ではこれまでも、皆様のお力添えをいただきながら、人との接触機会を減らすなど、施設を利用する方、そして、施設、事業者の方々が、新北海道スタイル、そして各業界で作っていただきましたガイドライン、こちらを徹底していただくこと、それと北海道のコロナ通知システムを皆さんに提供しているところでございまして、こちらを活用していくなど、皆さまで協力をして知恵を出し合って、今後新北海道スタイルを道民運動としてさらに展開をしていきたいということでございます。

本日はこちらの新北海道スタイルなどを率先して取り組んでいただいております事例を皆さまと共有をしたいと思っております。北海道経済連合会様、北海道観光振興機構様、そして北海道森林組合連合会様から、それぞれ、その率先して取り組まれている事例についてご紹介をいただく予定でございます。本当に貴重な機会をありがとうございます。お集まりいただきました皆様にはぜひ、今後の取り組みの参考にさせていただければ大変ありがたいというふうに思っています。

結びになりますけれども、本日を契機といたしまして、すでにそれぞれ実践をいただいているところでありますが、オール北海道でこの新北海道スタイル、こちらの普及、そして定着ということで取り組んでいきたいと考えておりますので、今後とも皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。本日はどうか皆さんよろしくお願ひ申し上げます。

2. 規約案について（山岡経済部長）

議事に入らせていただきます。まず、本推進協議会の規約についてお諮りします。本案につきましては、あらかじめお配りをし、ご確認をいただいておりますので、主な点のみ説明をいたします。

まず第3条の本協議会の取り組み内容ですが、協議会は目的を達成するために、北海道スタイルの推進に資する先進的事例の収集や発信、その他協議会の目的を達するために必要な取り組みを行うこととしております。

続きまして、第4条の本協議会の会員ですが、北海道スタイルの推進に連携して取り組もうとする事業者、産業、業界等、各種団体、行政機関等のほか、その他、北海道スタイルの取り組みに賛同する法人、団体個人等が広く入会できることとしております。

最後に、第6条の本協議会の運営についてですが、協議会の会長は、北海道知事とするとともに、協議会の会員から幹事を選任し、別表のとおりとするとしておりまして、別表に本日ご出席をいただいております団体を明記させていただきます。

それではただいまの規約案について、ご質問やご意見等ございますでしょうか。それでは特に意見がないようですので案のとおり決定させていただきます。本日ご出席の団体の皆様には、本規約により、幹事に就任いただきましたので、北海道スタイルの推進に向けまして、それぞれのお立場から、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

3. 「北海道スタイル」取り組み事例等発表

(1) 北海道経済連合会（真弓会長）

北海道経済連合会の真弓でございます。鈴木知事をはじめ、北海道庁、各市町村の皆様には、感染拡大防止、事業継続、雇用維持のための様々な対応につきまして、大変なご尽力をいただき、心より敬意を表しますとともに、感謝申し上げたいというふうに思います。あわせて本日貴重な場を設けていただきましたことにお礼申し上げます。私も長期にわたるウィズコロナの状況下において、ライフスタイル、ビジネススタイルの変革をオール北海道で押し進めることにより、今後の第3波、あるいは第4波の山をできるだけ小さくし、収束に向かわせ、経済活動の維持向上を図っていく、このことが必要であるというふうに考えています。このため、5月下旬に行われましたキックオフミーティング以降、北海道スタイルの普及、定着に向けて、会員企業を中心に強く呼びかけているところであり、引き続き精力的に取り組んで参りたいというふうに思っております。本日は取り組みの一例でございますが、ご紹介させていただきたいと思っております。

2ページをご覧ください。ここでは北海道経済連合会の北海道スタイルに係る取り組みでありますけれども、左の2枚の写真にあります我々の事務所における取り組みももちろんですが、当会の約500の会員に北海道スタイルを実践いただくために、お手元の資料の上の真ん中にあります会員向けのメールマガジン、右上に記載の会報誌、そしてホームページなどを活用し、活動の普及、定着に向けた取り組みを呼びかけているところでもあります。

3ページをご覧ください。こちらでは当会会員の皆様の取り組みの一部ではありますが、ご紹介させていただきます。業態などによって実施内容は異なりますけれども、写真にあるように、お客様の出入りする場所への北海道スタイル安心宣言の掲示、オンライン会議の活用、飛沫防止シートの設置などを進めていただいております。また会社の入り口にA Iサーマルカメラ、これを設置して、従業員やお客様の体温計測を行っている

企業もございます。リモートワークでありますけれども、従来から導入済みの企業、今回の事態を機に導入した企業がございます一方で、導入を目指しているけれども通信環境などの整備に時間を要しているといった企業もあり、業態によってばらつきはございますが、活用している企業様からは、概ね便利である、効率的となったという前向きなご意見をいただいているところでございます。

4 ページをご覧ください。次に、北海道と連携した特徴的な取り組みを行っている会員を2社ご紹介したいと思います。当会の会員であり、初音ミクというキャラクターの生みの親でございます、クリプトン・フューチャー・メディアさんの取り組みであり、左にありますのが、北海道スタイルの取り組みを道内企業や道民の皆様にはわかりやすくお伝えする絵文字であります。感染予防などの取り組みに自由にお使いいただけるようになっており、北海道のホームページの方にも掲載されています。右側ですが、北海道コロナ通知システムへの協力であります。施設などを利用の際にQRコードからメールアドレスを登録しますと、その日にその施設で感染者が確認された場合、北海道から登録者にメールで通知されるという仕組みであります。北海道がこのシステムを導入する際に、クリプトン・フューチャー・メディアさんが協力したと伺っております。

5 ページをご覧ください。このページは誠に手前味噌でありますけれども、北電グループの事例でございます。左にありますのは電柱広告を活用し、北海道スタイルの浸透を図るもので、広告料の一部を、北海道を通じて医療従事者様に寄付させていただくというスキームであります。右側でありますけれども、北電グループは全道に事業所があり、所有する車両も多くございますので、少しでもお役に立てればということで、ステッカーを車両に貼り付けております。

続いて6 ページをご覧ください。こちらはウィズコロナの消費促進に向けた当会の取り組みであります。北海道及び道内の各団体の皆様も同様の取り組みを進められていることは承知しておりますけれども、私どもといたしましても、この難局を乗り切るために、今できることをやろうという思いで、プロジェクトチームを立ち上げ、道内でお金を回す、消費を促す取り組みを行っております。このページにありますのは、第1弾として実施しております、JAさん、ぎょれんさん、そして北海道との連携による、ネットでの道産食品の購入促進の取り組みであります。主に会員企業に呼びかけております。このほかどうみん割の活用のPRとともに、道内ホテル、旅館の利用促進などにも取り組んでおります。今後は道産酒・ワインなどの販売促進にも取り組む予定であります。

7 ページをご覧ください。5月下旬に取りまとめました当会会員へのアンケート調査では、直面する課題として、売り上げの減少についてはどの規模の企業も挙げておりますけれども、一方、従業員100人未満の企業の4割が資金繰りの悪化、3割が雇用の維持が困難、2割近くが事業継続は困難と回答されています。特に小規模企業が経営及び雇用維持の大きな危機に瀕しております。緊急事態宣言終了後、経済活動は徐々に再開してきておりますけれども、国及び北海道、地方自治体からの様々な経済支援策により、足元を支えられているのが実情であります。事態の長期化が不可避の中において、医療崩壊を防ぎつつ、経済活動を維持していくためには、切れ目のない実効性ある対策が不可欠です。先を見据えた感染症などのリスクに対する強靱化も必要だと考えています。北海道スタイルの取り組みを実効性あるものとし、ウィズコロナ、アフターコロナに適切に対応するためにも、政府や与党に対して、ちょうど昨日から新型コロナに関連した要望事項を強くお願いしているところであります。

おしまいになりますが、事態が長期化の様相を呈している中、感染拡大防止と道内経済の立て直しに向けて、鈴木知事には地方創生臨時交付金など、国の予算も有効に活用していただきながら、現場実態を踏まえた効果的な支援をお願いいたします。北海道経済連合会といたしましてもしっかりと取り組んで参りますので、引き続きよろしく願いいたします。私から以上でございます。ありがとうございました。

(2) (公社) 北海道観光振興機構 (小磯会長)

北海道観光振興の小磯でございます。今週の22日に新しく北海道観光振興機構の会長に就任いたしました。まだ会長に就任して間もないところであります。今日は新北海道スタイルに向けて、我々の取り組み事例ということで、最初に少し、今観光という業界が抱えている課題、それに新北海道スタイルという取り組みと、どういう形で連携させながら取り組んでいけば良いのか、私なりの考え方を最初に少しお話ししたいと思います。新型コロナウイルスを抱えている中で、新しい生活様式としての場合と、新北海道スタイルという、それを新しいライフスタイル・ビジネススタイルへの転換に結びつけていこうという、この動きは、新しい北海道の観光戦略を考えていく上で、それは非常に大事な取り組みではないかと思えます。なぜかという、コロナ危機による影響というのは、これまでの経済危機とは違って、特に観光産業にとっては大きな打撃がございます。というのは今回のコロナ危機というのは経済活動の源である生産や消費そのものが、実は感染を拡大させてしまうという非常に大きなジレンマ、そういう構造がございます。そういう中で特に人の移動、これが大きく制約を受けたということで、観光産業は大きな打撃を受けている。その中でどういうふうに回復していくのか、大変長い厳しい道のりではあるのですけれども、一つ大きな取り組みの視点というのは、コロナ危機による社会の意識、仕組みの変化、これを北海道の魅力を高めていく機会にしていくという、その戦略が私は非常に大事ではないか、特に観光においては、私はその取り組みは非常に重要と考えています。具体的には、コロナに向き合った生活スタイル、これを定着させることによって実は北海道で安全安心な社会、これが実現できれば、実は旅行者にとっても安心できる旅が実現できる。そういう取り組みに新北海道スタイルという取り組みを是非結びつける、その意味でこれからの観光政策にとって大事な取り組みではないかと思っています。

とは言っても今、観光産業を巡る状況は大変厳しいものがございます。特に最近北海道ではインバウンドという海外からの観光消費、これがある意味で北海道経済をかなり支えていたわけですが、それへの期待という、今は世界におけるコロナ危機という状況で、それによる航空機の移動制約を考えれば、なかなかそれを期待していくというのは時間がかかる。当面、北海道内の旅、或いは国内の旅行という、いかに北海道に取り入れていくかというそういう取り組みが必要になってきます。ただ最近の動きを見ますと、少し制約の解除によって、人々の旅への需要がやはり高まってきているように思うのです。先月のあるシンクタンクの調査によると、これまでと同じように旅をしたいかという問いかけに対して、半分ぐらいはこれまでと同じような旅をしたいと。それ以外に実はコロナの影響がらみで旅には行きたくない、これまでのような旅をしたくないという方が9%ぐらい。ただ一方で、これまで以上にしっかり旅行をしたいという方が15%。実はコロナ危機によって旅への需要というのは上がってきていると、こういう動きがあります。それをしっかりと、地域として、観光需要として捉えていくということが非常に重要になります。その時に一番大きな問題は、安全で安心な旅、それを提供できるかどうかということなのです。したがって北海道に行けば、新北海道スタイルという生活様式で皆が暮らしている、そういう地域に行けば安心だという、そういう意味で、我々が取り組んでいる観光施策と新北海道スタイルの取り組みを、ぜひ連携させながら取り組んでいきたいなと私自身思っております。

今日は具体的な事例ということで、我々、今北海道で進めているどうみん割という、これは非常にいち早く、北海道民の旅への需要を喚起するという非常に大事な政策、それに合わせて、どうみん割を使われた1万名の方に宿泊券や特産品など、北海道いいトコいいモノ発券キャンペーンという取り組みを、需要喚起とうことで進めています。この取り組みは、旅をするということのその醍醐味と、さらにまたチャンスを与えるということと同時に、北海道産の農産品、加工品、それから特産品、そういうものの商品を結びつけていくというような、観光消費を幅広く具体化していこうというものです。実

はキャンペーンの実施に参画する宿泊施設では、新北海道スタイル、これを実践している事業者であるということを経営条件にしています。ということで新北海道スタイルの普及に我々も微力ですけれども取り組んでおります。

ということで、新北海道スタイル、この意義というのは、コロナに向き合うという新しい生活スタイルを定着させて、安全安心な社会をつくるという、これからの北海道観光にとって安心安全な北海道づくりに繋がる取り組みではないかということで、我々もしっかり連携しながら進めてまいりたいと考えております。

(3) 北海道森林組合連合会（富田代表理事副会長）

北海道森林組合連合会の富田と申します。鈴木知事を先頭に、コロナ対策に向かい合っていること、まず感謝を申し上げたいと思います。本日は林業木材産業の立場から発言をさせていただきたいと思います。今日はアフターコロナで変革する、これからの林業・木材産業と書かれた資料1枚を配布させていただいております。上段は新型コロナ感染拡大の林業・木材産業への影響を記載しております。北海道の森林面積は全国の22%を占めており、木材自給率も6割を占めるということで全国一の森林王国でございます。植えて育てて伐って使ってまた植えて、という資源の循環利用サイクルを構築しながらここまで来ております。コロナの感染拡大と長期化による木材需要の減少、それに伴いまして丸太受入制限、価格の低下など、物流が停滞しておりまして、非常にこの先、植栽を含めた森林整備にも影響が出てくるのではないかということ、また、今申し上げました資源の循環利用サイクルが崩れて、北海道の豊かな自然が大変危険に晒されているのではないかという感じも受けております。

今日はアフターコロナに向けた取り組みということでございます。資料の下段の三つの取り組みについて紹介をさせていただきたいと思います。まず1点目は、担い手の育成確保についてでございます。林業・木材産業に与えるコロナの影響は大変大きいところでございます。しかしながら、新たな価値観も生まれてきております。自然に囲まれた山間地域で仕事を行う林業・木材産業がアフターコロナに生まれた新たな価値観を踏まえ、鈴木知事が提唱いたします、新北海道スタイルを実践する取り組みが、今、十分可能性があると考えております。開放的な山間地域で働くという生活スタイルを目指す方々は、確実に増えていくものと思っておりますし、林業も選択肢の一つになろうかなと考えているところでございます。業界にとっても、担い手確保を進めるチャンスと考えているところでございます。

こうした中ではございますけれども、この春、待望の道立北の森づくり専門学院、私どもでは北森カレッジと言わせてもらっていますが、その学校が開校いたしまして、道内の林業・木材産業を支える担い手確保として大きな期待をしているところでございます。また、今年入学された中には、道外から入学された方が8名いると聞いております。自然に関わる仕事がしたいとして、家族で移住された方もいらっしゃるようで、豊かな森林の中で、先進的な技術を取得、習得、実践し、各地で活躍できる人材の育成に期待をするところでございます。業界全体が将来、道内で活躍する学生を支援していく仕組みも整ってきております。北海道という土地は全国の方々も憧れる可能性のある地域でございます。豊かな森林で働く生活スタイルの積極的な情報発信など、北海道と連携して担い手の確保に取り組んでいくことが重要と考えております。

2点目でございます。生産基盤の強化についてでございます。冒頭申し上げましたが、木材需要の減少、或いは物流の停滞ということで、森林整備への影響拡大が懸念されているところでございます。国の補助事業などを使いまして、丸太の一時保管場所を確保するなどして山づくりのため、また、森林整備が止まることのないよう、林業・木材産業と、道の水産林務部の皆様方と連携しながら、コロナの影響緩和に取り組んでいるところでございます。またドローンによる森林資源の把握をはじめとしたICT技術などを活用して、安全性や効率性、生産性を向上させるスマート林業についても、様々な場

面で導入が広がりつつあります。今新型コロナの影響で業界は大変厳しい状況にありますが、一方で、スマート林業の導入を加速させるチャンスということで考えているところでございます。

最後3点目でございますけれども、道産木材の需要喚起についてでございます。何といたっても、経済の回復に向けた対策として、道産木材の利用拡大が必要であると考えております。利用拡大のためにも、この広大な道内にある針葉樹、広葉樹を公共施設等に大いに使ってもらうことに期待しております。先頃、供用開始をされました道議会庁舎にも、北海道の多様な樹種を使っていただきました。私自身も議会庁舎を見学させていただきました。木の匂いですとか、心の気持ちの安らぎなど、地域住民に対しても高いPR効果が大きいと期待される場所でもあります。そして、できるなら、道庁ロビーなどにも木質化を進めていただき、さらに公共施設への木材の使用ということが、一歩も二歩も進むのではないかと考えております。新北海道スタイルの実現に向けまして、ソーシャルディスタンスに対応した道産木材を活用した飛沫防止パネルの作成についても、道南あるいは道東の会社で製作を始めているところであります。まず北海道庁で使っていただきまして、その後は各オフィス、或いはレストランなどへの普及にあたっては、道にも協力をいただければというところでございます。こうした先の見えない危機であるからこそ、業界と道が一丸となって、長期的な視点と大胆な発想で克服して参りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。以上でございます。

4. 「新北海道スタイル」の展開について（山岡経済部長）

新北海道スタイルの今後の展開につきまして、私の方から、ごく手短かに説明をさせていただきます。新型コロナウイルスとの闘いが長期化をする中で、道民の皆様のライフスタイルや、事業者の皆様ビジネススタイルを変革していくため、道では5月16日から休業要請の一部解除に合わせまして、新北海道スタイルを広く道民運動として展開することにつきまして、呼びかけをさせていただいているところでございます。

具体的には、まず道民の皆様に対して、国が、専門家会議の提言を踏まえて策定した新しい生活様式を示して、ソーシャルディスタンス、咳エチケットなど、行動の変容をお願いし、またお願いにあたっては、皆様にご協力いただけるように、シンボルマークの作成、視覚に訴えるイラストの使用のほか、今後はマスコットキャラクターも活用していきたいと考えています。道民の皆様への周知としては、本日、ご出席をいただいております北海道市長会の山口会長様におかれましては、千歳市の市民の皆様に向けたビデオメッセージの中で、このイラストを用いて新北海道スタイルの実践を呼びかけていただいております、この場をお借りして感謝を申し上げます。

また、事業者の皆様には、業界団体がそれぞれ策定したガイドラインから、道が共通する事項を抽出した7つのポイントをお示しし、取り組みをお願いしております。

新北海道スタイルの展開方向ですが、先月の知事の記者会見でもお示しした資料でございますが、道民のライフスタイルのチェンジと事業者のビジネススタイルのチェンジが連携をする、取り組みを可視化する、このことによって工夫が工夫を呼ぶという好循環をぜひ生んでいきたいと考えています。また、感染リスクの低減策が、ビジネスの展開として拡大にも繋がっていただけるように、道民運動として取り組むことを目指すものです。新北海道スタイルの展開方向につきまして、取り組みを時系列で整理いたしましたのでご説明を申し上げます。

新北海道スタイルは、感染症対策を取り巻く状況を踏まえた取り組みを展開していくことが重要だと考えており、大きく三つの段階に整理できると考えております。まず、フェーズ1ですが、当面、新型コロナウイルスがなくなる中で、長期間の休業要請等を継続していくことにはもう限界があり、このため、道民や事業者の皆様が知恵を出し合って、連携をして第3波に備えつつ、社会経済活動を止めないということが重要だと、そのためには早期に必要な取り組みを進めていかなければならないと考えてござい

まして、道民や事業者の皆様の行動変容を促進する支援、本日、オール北海道での体制を立ち上げさせていただいたところですが、道庁自らも北海道スタイルを率先して、実践して参ります。

フェーズ1の具体的な取り組みですが、北海道スタイル推進協議会について、会員には、産業、業界団体の皆様のみならず、北海道スタイルに取り組もうとする企業や個人、市町村など幅広く参加いただきたいと考えています。多くの方にご参加いただき、会員から北海道スタイルの取組事例を広く集めて、共有していく、実践に当たって悩みや課題を共有して相談をすると、そういうことを通じた場づくりということに取り組んで参りたいと考えてございます。

第3波に備えた感染症対策として先ほど真弓会長様からもご紹介いただきましたが、道では5月末から北海道コロナ通知システムを導入し、施設等の利用の際にQRコードからメールアドレスを登録いただくと、同じ日、同じ施設を利用した方の中から、もし新型コロナウイルスの感染者が確認された場合に、北海道からメール通知が届く仕組みです。利用者に届くメールでは施設やお店の名称、事業者名や利用日などはお伝えをしないで、個人情報保護の観点から安心してお使いいただけると、感染症対策に積極的に取り組むお店のPRにも使えるということで、普及に取り組んでございます。また、先週から、国も接触確認アプリを公開しております。こちらはスマートフォンとブルートゥース機能を利用して、感染者と概ね1メートル以内で15分以上近接していた場合に通知が届く仕組みです。アプリが必要だったりガラケーでも使えたりと、それぞれのシステムの特徴があるものですから、道では二つのシステムを両方とも使ってくださいと、併用を呼びかけているところでございます。

次にフェーズ2では、フェーズ1での取り組みの実効性を高めるために、北海道スタイルを実践している企業について、道民の皆様による利用を促すなど、コロナウイルス感染症の対策にしっかり取り組んでいただくという北海道スタイルのブランドというものを、道内だけではなく、広く道外や海外にも発信をし、新しい付加価値としていくということが大事なのではないかと考えています。この点につきましては先ほど道経連様からもお考えをいただいたところです。そのために、すでにどうみん割のような取り組みも行っていますが、事業者の皆様が積極的に取り組んでいくために、また、道民の皆様がそういったお店を選んでいただくために、動機付けになるような取り組みを進めていくことで、ウィズコロナ、アフターコロナで新しい基準となるよう、安心安全な北海道ブランドとして積極的に発信していくということが必要だと考えてございます。

海外への発信という点では、事業者の皆様が、取り組んでいることを海外に発信できるようにということで、英語、中国語、韓国語、ロシア語バージョンの7つのポイントを作成し、道のホームページで公開しております。こういう形で広く色々な方に、北海道ブランドのPRということで自由に使っていただければと考えてございます。

最後にフェーズ3ですが、新型コロナウイルス感染症の終息後を見据えた取り組みです。現在、感染リスク低減のために取り組んでいただいているもののうち、終息後は取り組みが継続されずに、元のスタイルに戻るものもありますし、その一方でやはり、利便性から終息後も新しいスタイルとして、定着していく、定着し続けるものもあると、こういう二つのものがあると考えてございまして、今の時点では残るものが何かということを見極めるのはなかなか難しいですが、フェーズ1フェーズ2の取り組みと並行して早い段階から、検討に着手することで、新しいビジネスチャンスとして、本道の新しい成長産業をつくっていくことにつなげていくということが大事だと考えてございます。本協議会には様々な産業や業界団体の皆様にご参加いただいているので、皆様の知見もいただきながら、この新しいステージの北海道づくりにも、併せて取り組んで参りたいと考えてございます。このような形で、今後、北海道スタイルの展開を進めさせていただければと思っております。よろしく願いいたします。

5. その他

(山岡経済部長)

本日は多くの団体の皆様にご出席いただき、また、初めて参加いただく各界トップの方も参加していただいています。少々お時間ございますが、何かご発言がございましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、小野寺会長様、お願いいたします。

(北海道農業協同組合中央会 小野寺代表理事会長)

J A北海道中央会の小野寺です。どうぞよろしくお願いいたします。新北海道スタイル推進協議会の設立、本当におめでとうございます。これからもよろしくお願いいたします。新型コロナウイルスとの闘いはこれからまだまだ長期化するものと思われませんが、新しい発想と同時に、オール北海道で、感染リスクの低減と社会経済活動の両立に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。また本日このように色々な分野の方々の団体が参加して推進協議会が設立されたことは大変意義深いと考えております。

我々農業団体としましては、農業分野においても既に生産者や組合員の方々には、感染予防対策に取り組んでいただいているところでありますが、引き続き食料の安定供給と安心安全な北海道ブランドの維持に向けて、新北海道スタイルを実践して参りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げますとともに、本日お集まりの皆様とともに、今後とも連携しながら、コロナ終息を見据えての取り組みを通じて、新たな北海道のチャンスに繋げるべく、取り組んで参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(山岡経済部長)

小野寺会長ありがとうございました。農業分野での新北海道スタイルの普及につきまして、何卒よろしくお願いいたします。

6. 会長挨拶（鈴木新北海道スタイル推進協議会会長）

先ほど、規約案をご承認いただきまして、新北海道スタイル推進協議会の会長を拝命いたしました。皆様これからもよろしくお願い申し上げます。本日は大変お忙しい中、皆様に貴重なお時間をいただきまして、この新北海道スタイル推進協議会のスタートを切ることができたことを心から嬉しく思います。厚く御礼を申し上げます。

また先ほど3名の方から新北海道スタイルの実践事例についてもお話をいただいたところでございます。経済連合会の真弓会長からは会員の皆様が取り組んでいただいております取り組み事例について具体的なお報告をいただきました。また観光振興機構の小磯会長からは、これからどうみん割と連動して取り組む、北海道いいトコいいモノ発見キャンペーンの概要について併せてお話いただくとともに、新北海道スタイルが観光分野においても極めて重要な取り組みになるのではないかというお話もいただいたところでございます。また森林組合連合会の富田副会長からは、大変厳しい状況にある一方で、林業・木材産業においては、人材確保などでは期待できる場所もあるのではないかというお話もございましたし、またスマート林業を推進するにあたっての、こういったコロナ下における必然性という必要性が高まっているというお話もございました。またその木材を活用した製品開発にも取り組んでいるというお話もございましたのでぜひ、そういったものができたときには、道庁でも活用させていただきたいというふうに思っています。

このような各団体それぞれの取り組みをいかにして機動的に共有してさらに、磨き上げていくのかということがこの新北海道スタイルを確固たるものにしていくポイントになると思っています。今、第2波について終息に向かいつつあると思っておりますけれ

ども、残念ながら第3波以降に備えなければならないという状況がございます。感染拡大防止に向けた取り組みを徹底していくとともに、やはり経済活動についても段階的に再開をしていかなければならないわけでありまして、何とかこういった新北海道スタイルというものを一部地域や、一部の事業所だけではなくて、オール北海道で展開することによって、様々な経済活動がある意味では、北海道でしっかり展開できる、そういった形になると思いますし、また全体で取り組むからこそ、ある意味では価値があると思っております。これはまさに我々が、誰も経験したことがない状況の中で、北海道が試されている、そういう状況だと思っておりますので、幹事の皆様をはじめ、より多くの方々々と連携協力をしながら、こういった新北海道スタイルのさらなる磨き上げ、これを進めていきたいと思っております。

今日はこういった形で、改めてオンライン会議で多くの方々、この機会を持ちましたけれども、途中ちょっと通信の途切れなどもございましたが、ある意味ではこういったコロナ禍の中でなければ、こういった形で皆さんと顔を合わせてオンラインで意見交換をする機会というの、正直少なかったと思っております。これだけ広大な面積を有するこの北海道の中で、こういった環境がしっかり整備されればですね、非常にプラスになる側面も出てくると思っております。そういった皆さんに実感をしていただくためにも、ある意味では各団体のトップの皆様ともこういった実践を、可視化していくということも重要だなと思ったところであります。

それと私の方から最後にちょっとお願いがございまして、皆さんのところにこの紙をお配りしておりますが、大変残念なことであるわけでありまして、医療や介護に従事されている方々や患者さんをはじめといたしましてそのご家族の方々などですね、その新型コロナウイルスの、その中で、いわれのない差別や偏見、そういったことで心を痛めている方がいるという、大変残念な事実があるわけでありまして。これは皆さんと同じ思いでありますけれども決して許されることではないということでありまして、皆さんと認識を共有しているところであります。昨日、ちょうど緊急事態宣言解除から1ヶ月ということがありまして、札幌市とも共同で、そういった新型コロナウイルス感染症から、命と健康を守るために、日夜奮闘いただいております医療や介護従事者の方をはじめとして様々な皆さんへの感謝の思いを込めて、ブルーライトアップということで行ったところであります。これ夜9時から11時までの間ですね、赤レンガなどをライトアップしたのでありますけれども、どうしても多くの方集まってしまうということで、事前告知はしない形ではありましたが、ライトアップをさせていただきました。この模様については動画などで配信という対応をさせていただくわけでございますけれども、こういった皆さんへの感謝の思いと、大変残念ながら、そういった心を痛めている方がいらっしゃるということがあるものですから、ぜひ我々推進協議会といたしましても、心一つにですね、そういったことがなきように、また、心一つに、不安な状況は多々ありますけれども、この新型コロナウイルス感染症に立ち向かっていこうということで、私から皆様に最後をお願いしたいと思います。どうかご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(了)